

〈資料紹介〉

「四王寺印」と印鑰祭

現存する大和古印のなかでも、この四王寺印は優品の一つに数えられており、古印の図録などには必ず紹介されている周知のものである。印は、昭和二十八年三月三十一日に重要文化財の指定を受けているが、江戸時代の寛文年間以後に京都の聖護院末の積善院に伝来し、近年、文化庁が購入し、本館は昭和五十四年四月一日に管理換を受け、今日に至っている。印は、大和古印の優品の一つという意味に加えて、付属の文書によって、印が使用された用途についても知りうるができる。ここでは、従来あまり紹介されなかった付属文書を公刊することに主目的があるが、今後の四王寺印の研究に資することがあれば幸いである。

銅印で、銅質、鑄技ともに良好である。印面方形(縦五・八糎、横五・六糎、高六・四糎)、鈕はいわゆる鶏頭鈕に類する形式のもので、鈕孔があり、印台は極めて厚い。印文の彫りは深く、「四王寺印」の四字を二字づつ二行に配している。書体は大和古印特有のもので、整然と配されているが、この四文字のうち「四」には篆書の崩れた趣がある。印は平安時代初期の製作にかかるとのである。

この印は現在、内箱(ラワン材)、中箱(桐材)、外箱(杉材)の三種の箱に収納されているが、中箱と外箱は被蓋作りで、それぞれに墨書銘がある。

〔中箱蓋裏銘〕

永正元年子甲七月十七日

新造之訖

前大僧正興雅俗年六十六
法臘五十二

〔外箱蓋裏銘〕

御本尊箱

〔外箱底裏銘〕

大永四年甲申

正月十六日

至明治三年從

大永式百四拾八年也

この墨書銘でみると、中箱が永正元年(一五〇四)、外箱が大永四年(一五二四)に製作されたことがわかるが、中、外箱ともに箱身前面に「前」と墨書がある。外箱底裏銘の後二行は明治三年に書かれたものであり、この大永から明治の期間は「参百四十八年」の誤りと思われる。内箱は積善院に移ってから製作されたものであり、この印が奉懸されるように作られている。この印と箱については、大正十三年に現存する古印を全国にわたって集約し、覚書を付した京都の沖野安良氏の『考古印譜』にも紹介されているが、そこには、京都聖護院積善院所伝

羽後国南秋田郡古四王寺の旧蔵(現在古四王神社なり)

秋田祭作法記ニ毎年一月元旦より

二週間此の印を本尊として祭り
鮭昆布餅を献して満願の日ニ寺僧

分けて頂くと云ふ

とあり、これから紹介する『秋田祭作法記』の記述を要約している。

この印に付属する文書は、

- (一) 秋田祭作法 宥雅筆
- (二) 印鑰
- (三) 古四王寺祭日記 宥雅筆
- (四) 古四王祭日記草 晃諄筆
- (五) 古四王寺次第記

の五件で、これらによって、四王寺印の由来、性格などが理解できる。四王寺印は、寛文年間ごろに積善院に移されたといわれているが、もと秋田県の四王寺に伝えられていた。このことは、宥雅の『秋田祭作法』に、「智証大師ハ伝テ青龍寺之印鑰一納ニ玉ヲ園城寺之勝地ニ聖徳太子ハ持テ百済国之印鑰一崇ニ候ス秋田之城之靈寺ニ」(傍点筆者)とあり、聖徳太子持、百済国印鑰のことはともかく、かつて秋田城の靈寺、すなわち四王寺に崇められていたことは事実のようである。この秋田城は出羽の蝦夷鎮圧のために設けられたのであり、この秋田城鎮護の目的で造営されたのが四王寺であったと考えられる。この四王寺のことについては、これまでもよく引用されているが、『類聚国史』の天長七年正月廿八日の条に、

癸卯。出羽国駅伝奏云。鎮秋田城国司正六位上行介藤原朝臣行則
今月三日酉時牒備。今日辰刻。大地震動。響如雷霆登時城墉官
舎并四天王寺丈六仏像。四王堂舎等。皆悉顛倒。(下略)

とあり、さらに『延喜式』の巻二十六の主税上の出羽国正税廿万束のなかに、

四天王、修法僧、供養并ニ法服ノ料二千六百八十束

とある。その創建に関しては不明の部分もあるが、四王寺の存在が確認できる。今日の秋田市寺内町の古四王神社はその後身といわれている。なお、この四王寺印が積善院に移ったことについては、古四王神社の神宮寺が聖護院末(積善院は聖護院の塔頭)であり、慶長十八年五月、幕府は聖護院を修験道本山法頭とし、本山派の山伏を直營せしめており、この関係で積善院に移ったと考えられている。

(難波田 徹)

(付屬文書箱蓋表銘)

古四王寺記并伝記表白
本地供

積善院

(表紙)

(一)

秋田祭作法

迅疾金剛宥雅

印鑰祭表白等

三礼 如来唄

一切恭敬 自歸依仏

当願衆生 自歸依法ッ

当願衆生 自歸依僧

当願衆生打 如来妙ッ

世間如来色 一切法常住

是故我帰依

正月修善之庭祭礼御願之

砌法味喰受威光増益之奉

為ニ冥衆定テ降臨影向シ給ラン

惣テハ六十余州普天率土有勢

無勢ノ大小神祇殊ニ当所勸請

妙見大菩薩古四王太子兩処八幡

白山々王等併法楽莊嚴奉

為ニ一切神分般若心経打大般若

経名丁

表白

慎敬白常住界会三身一体尺

迦牟尼如来十二上願伊王薄伽

三世一切応正等覚者八万十二

頭密聖教觀音勢至等ノ諸大

井満願善吉等ノ諸賢聖僧惣

テハ三界九居ノ護法天等尽無余

遍法界三宝ノ境界ニ驚シ申サリ

将ニ今信心ノ大法主法印大和尚

位合ニ一心清浄之掌ヲ專トベニ三業

相応之志ヲ年並不變ノ御勒メ

太簇二八之朝ニ点ニ修シ嚴重テ

難思之祭礼ヲ御マ事有其旨趣

如何者夫智証大師ハ伝ニ青龍

寺之印鑰ヲ納ニ玉ヲ園城寺之勝地ニ

聖徳太子ハ持ニ白ヲ濟国之印鑰ヲ

崇ニ秋田ノ城之靈寺ニ彼ハ権化

是ハ聖仁共ニ大権ノ化現也定

テ深意有ラム者哉 然レ問当

寺ノ勸主ハ開レ之合ニ竭合之掌ヲ

集会ノ道俗ハ拜之至ニ帰命之

礼ヲ奉レ帰レ之者ハ身心安樂ナリ

奉レ拜レ之者ハ福寿増長ス爰処ハ

レ読普聞品福寿海無量ノ誓

約無レ疑ハ処ハ誦尊勝陀羅尼除

災与楽之秘述有レ憑ニ然則大法

主ノ門徒繁昌シテ久ク翫ニ福慶

之月ヲ法燈光明ニ遠ク至ニ

竜花之曉ニ凡寺内安穩諸人

化樂及以法界平等利益

供養浄陀羅尼一切誦丁

敬礼常住三宝敬礼一切三宝

我今帰依釈迦弥陀今日所獻

香花燈明三業礼拝哀愍

納受願於清浄一切誦

淨妙供具 自他同証

供養供敬 廻向無上大井丁

觀音経一卷尊勝陀羅尼三反

毘沙門

唱礼三身

南無大々ハ吠室羅摩拏提婆

曷ヲ羅惹三反

摩訶室哩曳提婆度多

八大藥乞叉等諸大使者

梵王一三部一

発願

至心発願 唯願大日本尊界会

多門天王 大吉祥天 八大夜叉

諸大眷屬 三部界会 已下如常

讚 大日 本尊 四智

唵 菩陀菩地薩帝吠俱嚕耶訶

本尊觀

壇ノ中ニ有リ(種子)字一々變(シテ)成ニ宝捧一令

變成ニ毘沙門天王ニ坐スニ鬼上ニ身ニ

著ニ(シテ)甲冑ヲ左手掌承レ塔右手

執ニ(シテ)宝捧一隨身金色ニ面現ス忿怒一

此ノ天王是レ大日如来ノ差別智身也

本尊根本印

内縛二水合立二風ハ開テ 大呪

左右鈞当口

次小呪印 虛心合ニ地内ニ相又ニ風微屈ヲ加火背ニ頭不相着ニ空並立

鬲吠室羅摩拏野訶

念誦

大日 釈迦鬻姿 觀音

本尊大小正月吉祥天唵摩訶室利曳訶

諸夜叉 傳葉乞又濕縛 諸葉叉女

訶業乞叉尾你也陀利訶 諸天

三部 一字

大呪漸婆羅野爾也連多羅馱也訶 占三度

(貼紙)

双身印 本尊印ノ次

堅実合掌 二掌相合

唵 悉智慮素縛佉

四天王惣印明

内縛二水立合上節屈劍形

二空並縛ヨリ拔出メ招之 占三度

唵 漸婆羅謝鞞陀羅夜訶

曩謨囉怛曩怛囉野夜曩謨失
戰荼縛日囉幡拏曳摩賀葉乞
又細曩鉢多曳曩謨阿他骨嚕
葉乞室拏薩也摩賀羅惹摩羅
唵怛藍鉢羅尾沙珥薩縛薩怛
囉呬底瑟南怛囉也他唵摩尼縛
馱也訶布嚕拏縛馱囉也訶摩
拏栗馱也訶悉定迦囉也訶吠室
羅末拏也訶難曩馱也娑婆訶

右古四王寺祭礼之作法

者寛文九年三月十日ヲ

灌頂翌年道晃親王

於座下受之則以古本

令書写畢

迅疾金剛有雅

(表紙)

印鑰

印鑰祭表白等

三礼 如来唄

正月修善之庭祭礼御願之

砌法味喰受威光增益之

奉為ニ冥衆定テ降臨影向ニ

給ラム 惣テハ六十余州普

天率土有勢無勢ノ大小神

祇殊当所勸請妙見大井

古四王太子両所八幡白山々王

等併法楽莊嚴ノ奉為ニ一切

神分般若心經丁大般若經名丁

表白

慎敬白常住界会三身一体

尺迦牟尼如来十二上願伊王

薄伽三世一切応正等覺者

八万十二頭密聖教觀音

勢至等ノ諸大并滿願善吉

等ノ諸賢聖僧惣テハ三界

九居ノ護法天等尽無余遍

法界三宝ノ境界ニ驚シ申サリ

将今信心ノ大法主法印大和尚

位合ニ一心清淨之掌一專ニ

三業相応之志二年並不變、

御勸トシテ大簇ニハ二八之朝、

点シテ修シテ嚴重難思之祭礼、

御シテ事有其旨趣如何者夫

智証大師ハ伝テ青龍寺之

印鑰ヲ納メ玉ヲ蘭城寺之勝地、

聖德太子ハ持チ白濟國之印

鑰ニ崇ス秋田ノ城之靈寺ニ彼、

權化是ハ聖仁共ニ大權ノ化

現也定テ深意有ラ者哉

然間当寺ノ勸主ハ開レ之合ニ

竭合之掌ヲ集會ノ道俗ハ

至ニ歸命之礼ヲ奉レ歸レ之者、

身心安樂ナリ奉レ拜レ之ヲ者、

福寿增長ス爰所レ誦普

聞品福寿海無量ノ誓約無レ疑

所ハ誦尊勝陀羅尼除災与樂之

秘迷決定セリ然則大法主、

門徒繁昌シテ久ク翫ヒ福憂之

月一法燈光明ニシテ遠ク至ニ

竜花之曉ニ凡寺内安穩

諸人化樂及以法界平等

利益

供養淨陀羅尼一切誦丁

敬礼常住三宝……一切三宝

我今歸依尺迦弥陀今日所獻

香花燈明三業礼拜哀愍納受

願於清淨一切誦淨妙供具

供養供敬

自他同証 廻向無上大井丁

觀音經一卷 尊勝陀羅尼三反

一切恭敬 自歸依仏

當願衆生 自歸依法

當願衆生 自歸依僧

當願衆生 如来妙

世間如来色一切法常住

是故我歸依

(表紙)

古四王寺祭日記
宥雅

寛文十一辛卯年正月古四王寺祭ノ記

元日朝ヨリ改火用水後夜時ヨリ

古四王寺本地供始行三時修之日中、

時ニ御鏡壹重ツ三坏備之始終米

仏供備之觀音經五卷誦

一十五日マテノ御鏡早天ニ用意大キサ三寸斗

二日本地供三時修行日中ノ御鏡

如昨日觀音經五卷誦誦

三日三時之行法修之御鏡同前

備之觀音經五卷誦之

四日三時之行法等如例○觀音經

七卷誦之今日照高院殿

聖護院殿へ

御礼ニ參

五日三時之行法等如例○觀音

經五卷誦誦

六日三時之行法等如例○觀音

經七卷誦之

七日三時之行法等如例御鏡日中

時備之觀音經五卷誦之

八日三時之行法如例御鏡日中

時備之觀音經五卷誦之

九日三時之行法如例御鏡

日中時備之觀音經五卷

誦之今日諸礼ニ出ル照

門院ニ參

十日三時之行法如例御鏡日中

之時備之觀音經七卷誦之

十一日三時之行法如例御鏡日中

時備之觀音經五卷誦誦

今日方々へ礼ニ出ル

十二日三時之行法如例御鏡日中

時備之觀音經五卷誦誦

十三日三時之行法如例御鏡日中

時備之觀音經七卷誦誦

一 今日夕方ヨリ猶改火也○用行水十六日マテ

禁足コモリ候道俗同前他ノ者

十六日まで
○不入

十四日三時之行法如例御鏡日中時

備之觀音經七卷誦誦

十五日三時之行法如例御鏡日

中時備之觀音經七卷誦誦

初夜時畢テ大キナル御鏡二枚つゝ

三盃備之三坏ノ鏡ニカ

ケテ昆布二枚備之又昆布之

上ニ干鮭本備之

十六日用行水○後夜時結願々々ノ時神

体取出九重アル袋二重トル也

行法單ニ三礼法則等號之結願
結願以後コモリ候道俗拜之

一 (この行抹消)

一 備ル所之御鏡昆布干鮭等

コモリ候者共イタゞク也アマリ候

物ハ辰巳之角深クホリテウツム

犬ナトノホリ候ハヌヤウニウツム事也

用意物

一 餅米白

一 昆布 二枚

一千鮭

壹本

寛文十二子正月古四王寺祭之記

元日晴早朝ヨリ改火用行水古四王寺

本地供始行三時之日中ノ時

御鏡三坏一重ツ、備之始終米仏供

觀音經五卷誦誦

十五日マテノ御鏡、餅早天用意大キサ

三寸斗

二日本地供三時修之日中ノ御鏡

如昨日備之觀音經五卷誦

三日三時之行法御鏡等如昨日觀音

經五卷誦

四日雨天三時之行法如例御鏡

同前觀音經七卷誦

五日晴三時之行法如例御鏡同前

觀音經七卷誦

六日晴三時之行法如例御鏡同前

觀音經七卷誦

七日晴三時之行法修之御鏡

備之觀音經五卷誦今日

照門主聖門主江御礼ニ參

八日晴三時之行法如例御鏡

同前觀音經七卷誦

九日晴三時之行法修之御鏡同前

觀音經七卷誦

十日晴三時之行法如例御鏡同前

觀音經七卷誦

十一日雨三時之行法勤之御鏡同

前備之觀音經七卷誦

十二日晴三時之行法如例御鏡備之

觀音經七卷誦

十三日晴雨曇三時之行法如例

御鏡同前觀音經七卷誦

今日夕方猶改火用行水十六日マテ

禁足籠道俗同前他ノ者不入

十四日晴三時之行法如例御鏡同前

觀音經七卷誦

十五日曇三時之行法勤之

御鏡備之觀音經七卷誦

初夜之時畢テ大キナル御鏡

二枚つゝ三盃備之御鏡之

三杯ニカケテ
○上ニ○昆布二本其上ニ干鮭本

置之

十六日曇○後夜時結願々々ノ

時神体取出九重アル袋二重

トル也○結願以後籠候道俗拜

之行法以後三礼法則等號之結願云云

一 (この行抹消)

一 備^ル所之御鏡昆布干鮭等

コモリ候者ともイタゞク也余リ

ハ辰巳ノ角深クホリテ埋ム

也

用意物

一 餅米^白 九升<sup>内小鏡七升
大鏡二升</sup>

一 昆布 二本

一 干鮭 壹本

寛文十三^{癸丑}年正月古四王寺祭礼

之日々記

元日改火用水古四王子^(ママ)本地供

後夜開白三時ニ修行日中ノ時

備御鏡^{電重ツ、三盃}米仏供備

之観音経五卷読之

一十五日^{マテ}ノ御鏡早天ニ用意鏡ノ

大キサ三寸斗

一

二日改火三時ノ行法修之日中^ニ

備御鏡^{如昨日}〇観音経五卷読之

三日改火三時之行法如例御鏡

同備之観音経五卷読

四日改火三時之行法等如例

観音経五卷読聖門主照門主^五

御礼ニ參

五日改火三時之行法等如例

観音経七卷読

六日改火三時之行法等如昨日

観音経七卷読

七日改火三時之行法等如例

観音経七卷読

八日改火三時之行法等如

昨日観音経七卷読

九日改火三時之行法等如例

観音経五卷読諸礼ニ出^ル

十日改火三時之行法等如例

観音経七卷読

十一日改火三時之行法等如例

観音経五卷読礼ニ出^ル

十二日改火三時之行法等如

例観音経七卷読

十三日改火三時之行法^等如例

観音経七卷読晚方より

猶改火用水寺内之者

不残用水從今日十六日

まで^他〇不出^ル 他所之者不入

十四日三時之行法等如例観音

経七卷読

十五日三時之行法等如例観

音経七卷読初夜之行法

畢テ大キサナル御鏡三坏^{一重ツ、}

上ニ昆布二枚其上ニ干鮭^{一本}

備之

十六日用水後夜時^{〇ニテ}〇結^{行法}

願次祭礼之法則等読之

行法以前ニ二重袋ヲ取也

去年秋道寛親王^{廿六才}古四王寺

祭可被受由仰也予返答云我雖

及五十可為附法無弟子幸御

伝授可申旨御請申于時経数

日道寛^{〇云古四王寺之法御伝受之}

事者可為延引旨被仰次御物

語云有夜蒙靈夢給老僧

来云古四王寺之法者為若而受事

於受給者短命也^{ト告畢テ}夢

覚^{云々}仍今度御伝受無沙汰

平安之古記^{統統紀}ニモ此権現

之靈夢書記誠ニ可崇為靈

感者歟

延宝二年^{甲寅}正月元日後夜

ヨリ古四天王寺祭修之三時^{毎日}

行法御鏡等供物如例年

尤每日火ヲ改^ル也毎日ノ御鏡

元日早天ニ用意之結願^{十六日}ノ

作法御鏡昆布干鮭等供物

如例年備之結願^{後夜}以前

改火行水ヲ用諸事之作

法無別義

一十三日ノ夜ヨリ猶改火用

行水禁足

之後夜日中米仏供十六日

○後夜結願如例本尊ヲ出^シ奉^リ

拜^ス如例元日朝行水用十三日

晚^ニより禁足行水用十六日

朝行水用結願^又御鏡等

コモリ候者イタ^ク也

用意物

一餅米 七升<sup>二升ハ大鏡六
五升ハ小鏡九十</sup>

一昆布 二枚

一干鮭 壹本

(表紙)

古四王祭日記草

晃諱

宝永二乙酉歲十二月廿二日到

積善院室大阿闍梨宥雅古

四王受秘決退出

同晦日晴天申上刻移

新熊野設小壇如凶莊嚴

同三歲^{丙戌}大簇元且曇天

庚申<sup>諸宿
本曜</sup>寅刻改火沐

浴本地供始行

後夜一座

普門品^{卷一} 尊勝多羅尼^{卷三}

於堂外小呪^{三百反}

日中一座

普門品^{卷一} 尊勝多羅尼^{卷三}

於堂外小呪^{三百反}

初夜一座

普門品^{卷一} 尊勝多羅尼^{卷三}

於堂外小呪^{三百反}

妙見井^(菩提) 心經一卷 尊勝陀羅尼一卷

太子 同前

兩処 同前

八幡 同前

白山 同前

貞享二^(四)二年卯正月朔日朝ヨリ

古四王子祭始之作法等如例年

同十六日朝結願供物等同前也

貞享五年^(イマ)辰正月朔日朝^(イマ)ヨリ古四王子^(イマ)

祭始行作法如例年

同十六日朝結願供物等如例年

元禄八^{乙亥}正月朔日朝ヨリ古四王祭始

行作法等如例

十六日朝結願作法如例供物等道俗^ノ

十三日マテ觀音經七卷ツ^ノ読之^{如例}

十四日十五日三十三卷読之

中之時小鏡壹重ツ^ノ三坏備

五日三十三卷ツ^ノ読誦毎日

ノ行法觀音經五卷七卷十四日

王本地供始行十五日まで三時

天和四^子年正月朔日ノ朝ヨリ古四

王本地供始行十五日まで三時

山王 同前
 同二日降雨辛酉 金曜
 後夜 日中 初夜
 勤行如前日
 同三日晴天壬戌 土曜
 後夜 日中 初夜
 勤行如前日
 同四日晴天 日曜
 未刻降雨
 後夜 日中 初夜
 勤行如前日
 同五日晴天甲子 月曜
 後夜 日中 初夜
 勤行如前日
 同六日晴天乙丑 火曜
 午刻少雪降
 後夜 日中 初夜
 勤行如前日
 同七日晴天丙寅 水曜
 後夜 日中 初夜
 勤行如前日
 同八日曇天丁卯 木曜
 未下刻霰降
 後夜 日中 初夜
 勤行如前日

同九日晴天戊辰 金曜
 後夜 日中 初夜
 勤行如前日
 同十日晴天己巳 土曜
 後夜 日中 初夜
 勤行如前日
 同十一日晴天亦曇庚午 日曜
 後夜 日中 初夜
 勤行如前日
 同十二日雪天辛未 月曜
 後夜 日中 初夜
 勤行如前日
 同十三日晴天壬申 火曜
 後夜 日中 初夜
 勤行如前日
 未刻到積善院伴僧一人
 召具申刻火改沐浴室内
 之道俗等皆浴酉刻初夜
 行法
 同十四日晴天癸酉 水曜
 後夜 日中 初夜
 勤行如前日
 同十五日晴天甲戌 木曜
 卷数并仏布施等用意

同十六日晴天乙亥 金曜
 後夜結願沐浴素絹
 五条着之
 大阿闍梨宥雅衣体同前
 御厨子之箱之符切亦内
 包之紙ノ上打緒ニテ十文
 字結符付候ヲ切り紙ヲノケ
 又小キ厨子ノ上ヲ紙ニテ包
 如前符付アル其儘机ノ上
 ニノセ置退出于時後夜
 行法一座卷数仏布施
 作法如常行法終テ壇
 ヲ改メ鮭ヲ昆布ノ上ニノ
 セ行者ノ左ヲ魚ノ首ヲトシ
 腹ヲ前トス承仕役于時
 取香呂三礼登礼盤三
 礼表白次観音経尊勝多
 羅尼誦ス終テ下礼盤(シテ)
 作法終テ道俗拜(シテ)後道
 場莊嚴等即時取去也
 供物等道俗悉令食其後
 開門スル也

(包紙)

(五) 古四王寺次第第記

(1) 秋田祭之事 古四王寺

朔日ヨリ十五日迄行フ吉日良辰ヲ勘不及

朔日朝ヨリ火ヲ改毎日如此

每毘沙門供三時ニ行ヲ

双身ノ印明加之古四王寺之

秘印中心也

出入之者火をえらひ

悪火ノ者エラフヘシ

十五日一同禁足家内

者不出他所者不入

十四日夜半より亥刻迄

用行水其後如右

朔日餅ヲツキ鏡大サ二寸五分斗一重ツ、三杯ソナユル也

毎日常ユル此鏡ノ科朔日ニ

用意ノ置也結願ノ時ノハ

十五日ニツク是ハ数ハ同シ

丈ニスル也一ぱいにて可使敷

十五日初夜行過テ三杯ノ

鏡の上ニ昆布二枚重テ

三ノ鏡ニカケテソナヘ其上ニ

カラザケ一本置十六日ニ

結願(シテ)ノ昆布カラザケ鏡

等コモリ僧ニクハスル也

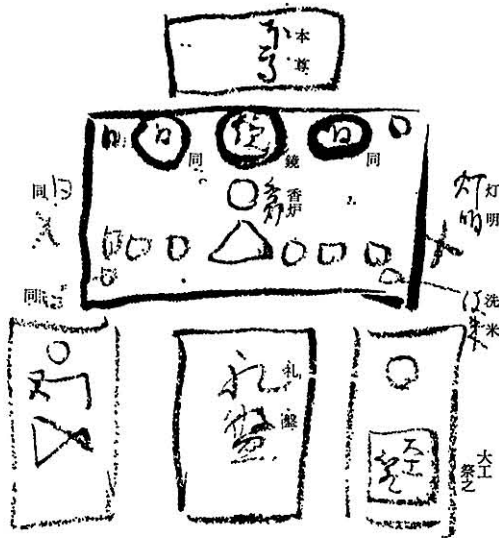
残ハ辰巳角ヲ深ク

ホリテ埋ム也毎日

餅ハ遣次第クハスル也

道場不用護摩堂可用 別殿

カラザケヲソナユル故也



十六日ノ

曉結願

ノ時袋

九重アルヲ

二重取出ス也

十五日之間觀音經誦
員數不定五卷にも

七卷にも或卅三卷にも
衣体ハ
常ノ為仏堂衣

結願ニハ用素絹

(2) 古四王寺双身ノ三身(ヨリ)秘印事

朔日ヨリ十四日迄毎日改

火行之十四日晚炊

以後一家中用行水無出入

十五日朝結願

朔日ハ餅三ツ

入三坏供物也十四日

朝飯以後鏡ヲつき

三ツツ三坏供物

結願給之十四日迄毎日

供物餅ハ朔日改火

ツキテヨク也

十五日結願後供物

籠者不残食之残所ハ

辰巳ノ角ニ埋也

讚ハ奥ノ短ヲ用

鏡三坏ノ上ニ昆布ヲ

長ク^(シテ)布其上ニ

カラザケヲ置

毘沙門供行要別ニアリ

文殊三種悉地

アラハシヤナ

先内五古

次内五古ヲ離左上^{上へ}

次内五古ヲ離各右^{上へ}

普賢三種悉地

サンマヤサタハン

先内五古

次内五古ヲ離右上^{上へ}

次内五古ヲ離左^{上へ}

不動五ヶ印

一内縛二頭指ヲ立地ヲサス

二内印二頭指ヲ開立

三ア印慈救呪

ヌカズニソノマヽ

四面手ア印先ヲ合

火界ノ呪

五四三明印 火界

二ヶ印

内縛二中指立劔形

火界

前印二頭指南開立二中打也

背ニゴヽウ

(3) 物忌令

一父母 四十日 服十日

一兄弟 四十日

一祖父 祖母 おち おは 廿日

一おい めい 七日

一孫 いとこ 三日

一酒 魚 なら 表 三日

一鹿 七十五日

一千蘇 千鹿 百日

一青蘇 四足物 廿日

一山鳥 七日

一水鳥 三日

一アラハタ 七十五日 ハシメタル男女ノ事也

一アタハタ 三日

一鹿服千蘇之合火 七日

一四足物鳥之合火 三日

已上不及巨細注

弘治三年正月十四日

右古四王寺本尊箱ノ中ニアリシ写

(4) 秋田ノ本尊ノ名

古キ写

秋田城鎮守

古四王大権現本地

尺迦四天王ニモトル也

五大尊ニモトル但不動ヲ

ノソク

御縁日

正月八日十五

佐竹右京大夫

印鈴祭表白等

三礼 如来呗

一切恭敬 自歸依佛

當願衆生 自歸依法

當願衆生 自歸依僧

當願衆生 如来妙

世間如来色 一切法常住

是故我歸依

正月修善之遊祭礼節類之

初法味食受感光増益奉

為冥衆定降臨數由給

惣六十余列普天學上有勢

無勢大小神祇殊常祈禱請

所見大菩薩古四王太子西魁宿

白山之王等併法樂莊嚴奉

為一切神分載若心經大般若

經名

表白

慎敬白常住法會三身一勝天

思半元如来十二願伊王薄伽

三世一切應止等覺者八万十二

頭密聖教觀音菩薩等諸大

并滿願善吉等諸位僧侶

三衆九君誰法天等蓋無余

通法水三寶之境衆等中

時令信心大法至法印大和尚

位合一心清淨之掌專業

相應之志年並不愛那站

大藏二八之朝魚修嚴重

難思之祭礼御事有共有趣

如何者支智證大師傳青龍

寺之印鑑納國城寺勝地

聖德太子持自涿國之字集

東林田城之靈寺被權化

是聖仁共大權化規也定

深慈有有有哉然間當

寺勸主開之合場合之掌

集會道俗拜之至布余之

礼奉幣之者身心本樂

奉拜之者福壽增長爰處

護香開名福壽海無量持

幼無疑處誦尊勝陀羅尼除

災兵樂之秘迹有須然則法

主門徒繁昌久既福運

之月法燈光明遠至

化集及以法水平等利益

供養津陀羅尼一切誦

敬礼常住三敬礼一切三

我今備依釋迦淨陀今日所獻

香花燈明三業礼拜表慰

納受願於清淨一切誦

淨妙供具 自他同證

供養恭敬 迴向無上大并

觀音經一卷尊勝陀羅尼

毗沙門

唱礼 三月

南无大日如来摩訶薩摩訶

名羅惹

摩訶室哩曳德婆度四多

八大樂元又等諸大使者

三三三三三三三三三三

三三三三三三三三三三

嚴願

(一) 秋田祭作法 有雅筆

至心教願 唯願大日 本尊身
 多門天王 大吉祥天 八大夜叉
 納大眷屬 三部鬼神 已下四部
 讚 大日 本尊 四眷
 本尊觀
 壇中有 承字 變成 寶棒
 變成 毗沙門天王 變 二鬼 上身
 着 甲冑 九手 掌 持 塔 右 手
 執 寶 棒 身 全 色 而 現 忿 怒
 此 天 王 是 大 日 如 來 先 別 智 身 也
 本 尊 根 本 印
 印 持 三 水 合 三 瓦 三 間 大 咒
 左右 鈎 當
 不 小 咒 應 念 三 施 內 相 是 一 瓦 餘 處
 加 大 梵 頂 不 相 着 三 字 至 五
 納 大 室 羅 摩 摩 摩 許 許 許
 雙 身 印 本 尊 下 又
 坐 寶 合 字 二 字 相 合
 香 志 智 願 素 續 法
 本 尊 大 小 吉 祥 天 中 尊 訂 室 訂 對 奇
 納 夜 叉 兩 乘 氣 運 持 納 藥 叉 女
 四 天 三 尊 印 明
 內 持 三 水 合 三 瓦 在 銀 砂
 三 字 並 持 引 出 出 指 一 度
 南 無 彌 勒 佛 南 無 阿 彌 陀 佛
 大 咒 納 夜 叉 兩 乘 氣 運 持 納 藥 叉 女

(貼 紙)

念 誦
 大 日 釋 迦 兩 尊 觀 音
 本 尊 大 小 吉 祥 天 中 尊 訂 室 訂 對 奇
 納 夜 叉 兩 乘 氣 運 持 納 藥 叉 女
 三 部 一 字
 大 咒 納 夜 叉 兩 乘 氣 運 持 納 藥 叉 女
 我 觀 羅 坦 最 坦 羅 野 志 最 諷 矣
 我 奈 得 日 難 情 唯 見 身 寶 藥 矣
 我 細 畏 許 多 兒 最 諷 阿 他 骨 骨
 藥 氣 室 摩 隆 也 摩 寶 羅 摩 羅
 給 坦 羅 修 羅 尼 沙 研 隆 得 隆 坦
 轉 四 應 慈 南 坦 你 也 他 他 摩 尼 得
 羅 也 奇 布 骨 骨 骨 骨 骨 骨 骨
 摩 東 歇 也 奇 志 定 如 羅 也 奇 以 室
 羅 末 摩 也 奇 羅 末 歇 也 奇 以 室

右 古 字 寺 祭 禮 之 作 法
 者 寬 文 九 年 三 月 十 日 予
 准 廣 聖 三 字 道 見 祝 主
 於 左 下 受 之 則 以 古 本
 古 書 寫 乎
 其 後 別 有 雅

(一) 秋田祭作法 宥雅筆